

令和 8 年度 養殖ビワマス市場調査業務企画提案書等
に関する質問への回答について

(1) 提供される試供品の養殖ビワマスそのものについて

Q1. 二倍体種苗でしょうか。それとも全雌三倍体などの倍数体種苗でしょうか。

A1: 全雌三倍体種苗です。

(1) 提供される試供品の養殖ビワマスそのものについて

Q2. 給餌していた飼料は市販品か、もしくは成分などのスペックを飼料メーカー等へ別注で生産依頼したものを使用しているのでしょうか。

A2: 全期間市販飼料を用いており、5 月の取り上げまでの約 3 か月間はフィード・ワン鱒 EP パフクリーン HR を給餌しました。

(2) 提供される試供品の養殖ビワマスの加工・保管方法について

Q3. セミドレス加工前の放血の有無とその手法、神経締めの有無をご教示ください。

A3: エラを切断のうえ水中で放血しました。神経締めはしていません。

(2) 提供される試供品の養殖ビワマスの加工・保管方法について

Q4. 真空封止後に急速凍結した際の凍結方法（例：エアブラスト、リキッド等）とその条件（温度、凍結時間）をご教示ください。

A4: リジョイス冷凍機によりリキッド凍結を行いました。凍結温度はマイナス 35℃、凍結時間は 20 分ないし 30 分です。

(2) 提供される試供品の養殖ビワマスの加工・保管方法について

Q5. 凍結完了後の保管条件(保管場所、温度)をご教示ください。

A5: 冷凍温度マイナス 25℃の冷凍庫で保管しています。

(3) 製品規格について

Q6. 今回提供される試供品はラウンドで平均 530g/尾とのことですが、サイズのばらつきはどの程度あるのでしょうか。最大サイズや最小サイズもご教示ください。

A6: おおむね 400～700g の範囲の魚が冷凍されています。

(3) 製品規格について

Q7. 将来的には現在出荷されている『びわサーモン』のように1kg/尾程度まで改善される見通しは立っているのでしょうか。

A7: 湖中養殖の飼育開始サイズを大きくする等により改善できることを見込んでおり、来年度以降、試験生産に取り組む予定です。

(3) 製品規格について

Q8. 今回提供される試供品は、活締めとセミドレス加工されていますが、商業出荷する際には産地でどのレベルまでの一次加工が可能でしょうか（ヘッドレスドレスまでやフィレまで、スキンレスフィレまで等）

A8: 現在のところ、具体的に決まっているものではありませんが、本調査の結果を踏まえ、一次加工の程度を検討する予定です。

(3) 製品規格について

Q9. 仕様書別添資料①のプロジェクトイメージには『【湖中養殖】こだわりの品質を通年で安定供給』とありますが、湖中養殖のビワマスは通年で養殖と池上げが可能なのでしょうか。もしくは高水温で養殖ができなくなる5月頃に全数を池上げし、加工・冷凍して冷凍商品として在庫を作り、それを年間通じて出荷するということでしょうか。

A9: 琵琶湖の水温が上昇するため、湖中養殖したビワマスは5月末頃に全数池上げする必要があります。取り上げ後は、加工・冷凍して冷凍商品として在庫することで年間通じた出荷が可能と考えています。その一方で、余剰個体や小型個体の陸上池での継続飼育も手法として検討する必要があると考えています。

(4) 製造単価について

Q10. 今回提供される試供品の製造単価（ラウンド換算で100gあたり）をご教示ください。

A10: 現在は、小ロットでの試験飼育ですが、生産委託費（餌料費、飼育資材費、飼育管理に係る賃金、取り上げ冷凍加工費等）と生産重量から計算すると約1,000円/100gでした。

(4) 製造単価について

Q11. 将来的に生産技術が改善された場合に想定される製造単価をご教示ください。

A11: 現時点で明確な製造単価は想定していませんが、琵琶湖の生産環境からは大規模な生産は困難であることから、高価格帯のサーモン市場での利用を見込んでいます。